



世界銀行のネットワークを利用した新たな試み [中国同窓会フォローアップ遠隔セミナー]

2006年9月28日に、世界銀行東京開発ラーニングセンターにて、中国の同窓会フォローアップセミナーを実施した。東京と北京、新疆、そして重慶をTV会議で結び、3時間にわたるプログラムを行うものであった。参加者数は、北京10名、新疆5名、重慶20名の計35名。メイン講師は長年、「中国中小企業振興コース」をご指導いただいている神戸大学・石原教授で、先生の基調講演を皮切りとし、各地からのプレゼンテーションも交えた活発なセミナーとなった。



3拠点を画面で見るとこのような感じ。



石原先生のご講義(現地から見える画面はこのように感じ)。

■同窓会とのネットワーク強化

PREXには12の国・地域に同窓会がある。フォローアップセミナーや、現地セミナー開催時などを活用し、同窓会会員との関係維持を図るよう各職員で努力を続けている。しかし、出張は首都が中心、地方でも主要都市に行くことが多く、各地に散らばる同窓会会員が集まるには限界がある。また、いつも多くの同窓会会員が集まれるわけではない。今回フォローアップを実施した中国はその最たるもので、中国で1つの同窓会という訳に行かず地方分会を設けているほどである。

今回世界銀行のネットワークを利用し、フォローアップを図ったのはその中国。集まるのが難しい各地の同窓会分会をテレビ画面上でつなげ、同窓会へのフォローアップ、各地の関係者の関係強化を図るのが目的だ。

■遠隔研修にもっと新しい切り口を

この事業の目的はそれだけではない。PREXが実施してきた遠隔タイプの研修について、更なる内容の改善、新たな活用方法などの検討も大きな目的であった。当財団では97年から、アセアン地域を対象に、TV会議システムを使った研修を実施している(通称、遠隔研修)。しかし、アセアン以外での実施や、セミナー・ビジネスコンサルティング的な内容だけではない、もっと違った遠隔研修についてはまだまだ検討、改善の余地ありだ。今回新しいシステムで、多少なりとも違った内容でトライアルをすることで、前述の点の検討材料も得たい、という目的もあった。

■なつかしいお世話になった関係者達

当日は神戸大学の石原先生のご講義を

中心に、北京・新疆・重慶から各地の状況についてプレゼンテーションをしてもらった。また、各地から質問を受け付け、TVスクリーン越しに質問者と先生がやり取りを行うという双方向感のあるセッションも設けた。

また、過去の関係者と当財団の職員が画面を通じ旧交をあたためる場面もあり、TV会議でないとできないなあ、と感じさせるひと幕もあった。

■これからの遠隔研修

初の試みとしては、スムーズに行き、TV会議ながらそれなりの臨場感もあったと感じられた。今回始めて、世界銀行のネットワークを使わせていただき、初の中国対象に、フォローアップを実施することで違った可能性も見えてきた。発展途上国の人材育成。それには、日本・海外での対面式セミナーしかないのか。日本に来てからすべて学ぶのがいいのか。事前学習はできないのか。テキストを読むだけでなく、少し

は先生の顔を見ながら学習する方法は等々、遠隔研修の可能性と限界を見極めるため、そしてPREXにとって大切なネットワークである同窓会の連携を図るため何ができるのか。今回初のトライアルは「一旦」無事終了をした。これで終り、ではなく、今回の試行をきっかけに新しく何ができるのか、どうすればもっと「いい」ものができるのか。今回のセミナーで宿題が沢山出たような、新しい可能性が少し見えたような気がする。これからのに向けた楽しい挑戦を感じさせてくれるセミナーになった。今後、PREX NOWの紙面に、新しいご報告が出来るような内容をめざし、「可能性」をこれからも探っていきたい。

—国際交流部 主任 関野 史湖

お世話になった方々(講義・訪問順・敬称略)

神戸大学 国際文化学部 教授・大学院総合人間科学研究科 石原享一教授、中国科学技術部、重慶市科学技術委員会、新疆生産力促進センター、世界銀行東京開発ラーニングセンター

